

## 運営状況概要書

(株3)

法人名:

株式会社 秋田ふるさと村

設立年月日 平成5年5月18日

## 1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役社長 粟津 尚悦	資本金	495,000千円	県出資等額及び比率	250,000千円	(50.5%)	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
設立目的	本県の文化遺産の継承、新たな郷土文化の創造拠点として、この二つの機能を充分に生かし相乗効果による県民文化の向上と地域産業の振興を図ることを目的に県等の出資により設立。							
事業概要	秋田ふるさと村の管理運営							
関連法令、県計画	なし							
役員数 (R7.7.1現在)	理事 常勤 1	監査役 常勤 7	評議員 常勤 1	計 非常勤 1	職員数 (R7.4.1現在) 常勤 非常勤 8	正職員 14	出向職員 14	臨時・嘱託 計 28

## 2 法人の行動計画(令和4～7年度)

県関与のあり方	縮小・廃止	経営状況	概ね安定	取組の方向性	・内部留保の積み増し
目標	当面は新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底しつつ、その収束も見通しながら(株)秋田ふるさと村のアクションプラン(2021-2025)に基づく取り組みを着実に進め、これまでの収支分析を踏まえ損益分岐点である入村者数60万人以上の集客を目指す。 【目標】目標入村者数 R4年度:50万人、R5年度:60万人、R6年度:65万人、R7年度:65万人				
取組	R2年度末に策定した当社のアクションプラン(2021-2025)に基づく計画を基本に、各年度目標の達成に向けて次のような取組を進める。 [R4年度] 感染症の影響が残ることを踏まえつつ、リニューアルしたアトラクションの魅力発信、飲食部門の魅力向上や村内(物販エリア等)の改裝、新たに環境整備を予定している屋外施設を活用したイベント等の実施、インバウンドを含む旅行需要の回復を見通した営業強化等に取り組み入村者数50万人を目指す。 [R5年度] R4年度の取組を継続しコロナ禍前と同等の入村者数60万人を目指す。 [R6年度] 上記取組に加え、開村30周年の各種アニバーサリー事業の展開、県立近代美術館の特別展との連携強化等により65万人の集客を目指す。 [R7年度] 上記取組を深化・成熟させながら65万人の集客を目指す。				

## 3 財務

## 損益計算書

(単位:千円)

区分	令和5年度	令和6年度
売上高	528,658	586,870
売上原価	297,944	345,525
売上総利益	230,714	241,345
販売費及び一般管理費	213,712	222,652
人件費(売上原価含む)	120,791	128,114
営業利益(損失)	17,002	18,693
営業外収益	2,104	3,215
営業外費用		8
経常利益(損失)	19,106	21,900
特別利益	27	2,517
特別損失		
法人税・住民税・事業税	6,528	7,191
当期純利益(損失)	12,605	17,226

## 貸借対照表

(単位:千円)

区分	令和5年度	令和6年度
流動資産	611,545	631,910
固定資産	16,701	17,931
資産計	628,246	649,841
流動負債	78,822	82,272
短期借入金		
固定負債	21,553	22,472
長期借入金		
負債計	100,375	104,744
資本金	495,000	495,000
利益剰余金等	32,871	50,097
純資産計	527,871	545,097
負債・純資産計	628,246	649,841

## &lt;主な経営指標&gt;

項目	令和5年度	令和6年度	増減
経常収支比率 (経常収益 ÷ 経常費用)	103.7%	103.9%	+ 0.1
流動比率 (流動資産 ÷ 流動負債)	775.9%	768.1%	7.8
自己資本比率 (純資産計 ÷ 負債・純資産計)	84.0%	83.9%	0.1
有利子負債比率 (有利子負債 ÷ 純資産計)			

端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

## &lt;退職給与引当状況(単位:千円)&gt;

要支給額	引当額	引当率(%)
32,364	19,914	61.5%

養老保険に加入している

## 県の財政的関与の状況(事業費補助・委託を除く)

(単位:千円)

区分	令和5年度	令和6年度	支出目的等
年間支出			
年度末残高			

法人名：

## 株式会社 秋田ふるさと村

## 自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況		2 経営状況	
<b>【令和6年度実績】</b> 入村者数：739,259人（前年度：551,657人、目標：65万人） 入村者数のうち団体客：43,501人（前年度：47,315人） 団体客のうちインバウンド客：7,499人（前年度：6,802人） アトラクション利用者数：143,021人（前年度：137,404人） ふるさと市場利用者数：265,430人（前年度：214,002人） ふるさと料理館利用者数：82,979人（前年度：70,407人） 地元メディアと連携した自主イベント利用者数：216,565人（前年度：203,448人） 企業等による会場利用日数（仕込み・撤収日含む）：369日（前年度：300日）複数会場利用による延日数 企業等によるイベント等客数：105,906人（前年度：75,646人） フラワーパークを背景とした屋外イベント開催日数：29日（前年度：26日）		<b>【令和6年度実績】</b> 売上高：586,870千円（前年度528,658千円） 売上原価と販売費および一般管理費の合計：568,177千円（前年度511,656千円） 営業利益：18,693千円（前年度17,002千円） 経常利益：21,900千円（前年度19,106千円） 当期純利益：17,226千円（前年度12,605千円）	
<b>【自己評価】</b> 夏の大雨や台風、2月の寒波など、集客環境は厳しいものがあったが、30周年記念事業の精力的な展開や、県立近代美術館との連携によるジブリ展等来館者の誘引、飲食部門の魅力アップやインバウンド誘致の拡大、冬の大型観光キャンペーンに伴う県の需要喚起策の積極的活用等により入村者数が大幅に増加し、集客目標を大きく上回ることができた。 令和7年度は、30周年記念の事業等で培った集客・販促のノウハウを生かしながら、自主・会場利用によるイベントの精力的展開、テナントエリアの活性化、お得感のあるチケット造成、インバウンドを含めた団体誘客や近隣でのスポーツイベント参加者の取り込み、情報発信のボリュームアップや高度化等により、集客目標の達成に努める。		<b>【自己評価】</b> 評価 A 売上高については、各種30周年記念事業の精力的展開やジブリ展目的客の着実な取込み等による入村者数大幅増を背景に、前年度比58,212千円増の586,870千円（前年度比111%）となった。 物価高や除雪経費の増嵩等による施設管理受託原価やイベント開催原価の増大、昇給や定年等に伴う退職金の発生による人件費の押し上げ等もあったが、組織・施設の効率的運営を図り、営業費用（売上原価及び販管費）については、売上高の伸びを下回る568,177千円（前年度比111%）にとどめることができた。 営業利益は前年度を上回る18,693千円（前年度比110%）となり、当期純利益は17,226千円を確保し、2期連続の黒字、かつ前年度からの增收増益となった。	

## 所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況		2 経営状況	
<b>【所管課評価】</b> 団体客において前年度を下回ったものの、全般的に目標数・前年度実績を上回っており、引き続き目標達成に向けた取組を続けていただきたい。		<b>【所管課評価】</b> 近代美術館でのイベントによる集客の取り込みが効果的に行われ、二期連続での增收増益が達成されている。 引き続き内部留保の積み増しに向けて、取り組んでいただきたい。	

## 委員会評価

総合評価	法人全体の取組・運営状況に関するコメント
A	各種イベントの実施等が奏功し、行動計画上の入村者数は目標を達成し、厳しい経営環境の中で增收増益を実現した点は評価できる。

## 【委員からの提言】

インバウンドや教育旅行の積極的誘致のほか、県立近代美術館との連携強化等により、更なる黒字化を図るとともに、県南地域の観光の拠点としてのハブ的な役割を果たすことを期待する。
---

委員会評価を踏まえた対応方針	所管課の対応方針
<b>法人の対応方針</b> インバウンドについては、秋田ならではの食や体験の提供をセールスポイントに、ファムツアーや含めた様々な機会・媒体を通じて誘致に努める。また、教育旅行については、地域との連携のもと、特色ある自然や文化、産業を体感できるコースを提案するなどして誘致拡大を図る。 県立近代美術館とは、ウェブサイトのリンク付けや互いの広告媒体を活用した情報発信、相互のチケットの特典付け、イベントの共同展開等に努める。また、横手市の増田さんが美術館や隣接する新体育館などの地域の施設との幅広い連携も図りながら誘客に努め、県南の観光拠点としての役割を果たしていく。	<b>所管課の対応方針</b> 利用者の更なる増加に向け、引き続き法人と連携して教育旅行やインバウンド等の団体客を中心とした誘客促進に取り組んでいく。 横手市及び近隣の施設等との連携を促し、県南地域の観光の更なる活性化を図っていく。